



横浜市立富岡小学校

学校だより 2月号



富岡小学校の学びを止めない

副校長 藤田 敏明

「デルタ株」に「オミクロン株」と、次々に変化する新型コロナウイルスの猛威に、感染の終わりを見通すことがなかなかできません。保護者の皆様には、今回も授業参観の日程変更等、ご迷惑をおかけしております。2月13日に「まん延防止等重点措置」が解除されることを見通して新たな日程を設定しましたが、今後の状況により再度の変更をお願いする可能性もあります。ご理解いただけますよう、よろしくお願い致します。

本校の特色ある教育活動のひとつである「発表とみおかタイム」。今年度も、全校が一堂に会して発表することはできませんでしたが、11月末から各学年で、他学年に向けて、工夫を凝らして学習の成果を発表しています。

5年生は、持続可能な社会に向けて自分たちができることについて、年間を通して調べていたことを「衣・食・住」のそれぞれの視点からまとめ、「みんなみんな生きているんだ」のテーマで4年生に向けて発表しました。

3年生は、地域の「花だん隊」の方々にご協力いただき、栽培したダイコンに興味をもち「大根はかせになろう」のテーマで、ダイコンの特長について調べたことを発表する準備をしています。育てたダイコンの一部（20本）は、1月24日の給食のみそ汁の具として、全校でおいしく食べました。

そのほかの学年でも、取り組んだ活動の成果を、わかりやすく工夫して発表ができるようにがんばっています。

1月26日（水）には、金沢区の代表校として、タブレット等情報機器を効果的に活用する手立てを探る区情報教育研究会 授業研究会を本校で開催する予定で準備をしていました。急遽、他校の教員の参観は見合わせるようになったのですが、タブレット端末をシンキングツール※として効果的に活用する方法を、区内の教職員との情報交換し、そのスキルを高めていけるよう研究しています。

そして本校の教職員も今年度、子どもに身につけさせたい力がつく言語活動を工夫できるようにするために、教育委員会の先生や他校の校長先生に指導を仰ぎ、国語科の授業を中心に全教職員でよりよい授業づくりのために、研究活動を行っています。

授業改善に向けて、我々がこれまで継続して行ってきた他校の教職員との研究・研修も、ひとつの学校に集まったの活動がなかなかできません。それでもオンライン会議など、工夫しての活動を行っています。このコロナ禍でも、教員同士の「学びを止めない」努力を続けています。

わたしたち富岡小学校の教育活動でも、コロナ禍での対応に万全に取り組みながらも、子どもたちの「学びを止めない」ための努力を続けていきます。今後ともご支援、ご協力をお願い致します。

※シンキングツール・・・「自分の考えをつくり出す」ことを助けてくれる道具